

学校だより

第2号

R7年5月22日発行

しもはら

文責

校長：森山 泉恵

山々の緑が一段と色濃くなり、早くも初夏の訪れを感じさせる日々です。新しい学校生活に慣れてきた児童たちが、様々な場面で実力を発揮し始めました。一生懸命に取り組む姿は尊いです。今月も、そんな姿をご紹介します。



新1年生も徐々に学校生活に慣れてきました。中庭の池やタイヤのお山を探検しながら、自分たちの活動範囲を増やしつつあるようです（左上写真）。

また、月1度の朝の読み聞かせは1年生も楽しみにしています。ペースがゆっくりの児童も、読み聞かせを横目に、朝の準備を済ませられるようになりました（右上写真）。この時期は、幼保から小への架け橋期です。一人一人が自分のペースで慣れていくのをサポートしたいと思います。



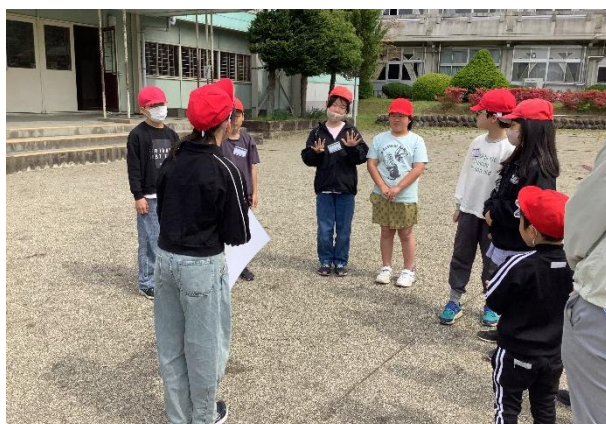
前年度から新年度への架け橋期、新しい環境は児童を大きく成長させます。

お兄さん・お姉さんになった新2年生は、学校探検で1年生の案内役を務めました。2年生のこの時期は、新入生のめんどうをみながら、頼もしいお兄さん・お姉さんへと大きく成長していきます（左写真）。

「みんなでわくわくする学校」づくり

今年度のテーマは「みんなでわくわくする学校」です。様々な行事や活動の中で、児童一人一人がここぞという時に自分の強みを発揮して一生懸命取り組めるといいなと思っています。

さっそく、5月14日の「新入生お迎え集会」は、児童会のメンバーが企画・進行了しました。進行役を一生懸命努め、グループみんなが仲良くできるよう気遣う上級生の姿が感動的でした。終了すると、1年生から「楽しかった!」という声がたくさん聞かれ、この会が大成功であることを実感しました。



今年度の学校経営で大切にしていることは、
「主体性」と「コミュニケーション」です。
授業中のつまずきや失敗を恐れず、自分から
相談し納得いくまで学び合うことで、達成感
ある「わくわくした学び」を積み重ねてほし
いと思います。授業を参観すると、頭をくっつ
けて真剣に話し合う姿にたくさん出会います。
その尊い真剣な姿に心打たれます。

授業の学びを活かし、児童主体の学校づくりの実践に努めてまいります。

